

～ヨーロッパ最新情報～

5月26日付で、ヨーロッパの以下の国の感染症危険情報がレベル1に引き下げられました！
アイスランド、アイルランド、英国、オランダ、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ノルウェー、ベルギー



また、6月1日以降、日本の水際措置が見直されています。

※引き続き、全ての国からの入国者に対して、出発国出国前72時間以内実施の陰性証明書の提出が求められます。

※当情報は今後変更がでてくる可能性がございます。各国の大使館・領事館からの情報や、航空会社等、多方面からの情報収集と併せてご確認をお願いします。

AUSTRIA (オーストリア)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

25度以上の陽気が続き、市内にはもう夏の装いをした観光客がたくさん溢れています。5月16日からオーストリア入国への3G証明の提示が不要になり、また6月1日からマスク着用義務が廃止され、ワクチン接種義務も停止されます（注:ウィーン州では一部マスク着用義務が継続されます）。夏の観光シーズンに向けて、コロナ前とほぼ変わらない状態で観光客のみなさんをお迎えできるようになりました。

日本からの入国情報	[5月31日時点] 5月16日より、入国に対する規制・規制は撤廃され、陰性証明などの提示も不要となりました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] Grüner Pass(Green Pass)というアプリに接種証明、陰性証明等の情報 (SMSやEメール等で届くQRコード) を読み込ませます。アプリがなくても、接種証明書等を飲食店等でそのまま提示しても問題ありません。病院・介護施設で3G証明書提示を義務付ける以外は全て撤廃されました。
マスク着用義務	[5月31日時点] 6月1日より、マスク着用義務の停止 (現行では8月末まで)。 ※病院・老人ホームなどの医療施設での着用義務は継続 ウィーン州のみ、公共交通機関・薬局での着用義務の継続
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月31日時点] 契約検査機関により、検査結果は2時間から24時間以内に送付されます。第三者に結果を送信する場合、委任状が必要です (みゅうのPCR検査の商品は、MIKIに結果を送ってもらってから、チェック後お客様にお送りしています)。



シェーンブルン宮殿とその庭園

BELGIUM (ベルギー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

これまでバロメーターの色をお伝えしてきましたが、5月23日からバロメーターによる規制が休止しており、コロナ前の状態に戻っています。

日本からの入国情報	[5月31日時点] 5月23日から、EU外からの必要不可欠ではない渡航の禁止は、解除されています。また1日目及び7日目の検査義務、10日間の検疫、渡航者位置特定フォーム(PLF)、ワクチン接種証明、回復証明または有効期限内の検査結果の提示義務もなくなりました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] 5月23日からバロメーターによる規制が休止しており、必要ありません。
マスク着用義務	[5月31日時点] マスク着用義務は、病院、医務室（医師のいる場所）及び薬局を除きあらゆる場所においてなくなりました。公共交通機関におけるマスク着用は義務ではありません。しかし、非常に多く人が行き交う場所または老人ホーム、歯科、理学療法所、心理療法所、言語療法所などのケアを行う環境においては、マスク着用が推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月31日時点] 日本語で対応してくれ、グループの受け入れ可能な検査機関がありますが、支払いが現地払いのみとなります。立替払いを希望する場合、アシスタントを手配して、支払を委託することになります。



ブルージュのマルクト広場

CZECH（チェコ）



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

5月12日のプラハの春国際音楽祭のオープニングと共に本格的な観光シーズンが戻ってきました。例年たくさんの観光客が来てくれる日本やアメリカ、ロシアや中国からの観光客はまだありませんが、プラハの中心地はそれ以外の国の観光客で賑わっています。特に週末はどの名所も観光客が長蛇の列をなしています。コロナはなんだったのかと思えるほどマスクを着用している人はほぼ皆無、街を行きかう人たちは地元の人でも外国人観光客も夏を楽しんでいます。日本から見るとウクライナからの距離が比較的近いように感じられて懸念される方もいるかもしれませんが、KyivとPraha間は約1,400km、ウクライナと直接国境も接しておらず日常生活も戦争をイメージさせるものはウクライナの旗が多く掲げられているぐらいで、観光にお越しいただくには全く支障ございません。

日本からの入国情報	[5月31日時点] 4月9日付でチェコに入国する全ての人の検疫等に関する制限が解除されました。これによりすべての渡航者は、渡航前に入国フォームを記入する必要もなく、PCRテストの結果や新型コロナワクチンの接種証明書を携帯する必要もなくなりました。ただし日本からチェコへの直行便が無い（乗り換え国）や利用する航空会社が要求する場合には、それらの書類が必要となります。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] 国内でDCCを提示するような機会はほぼなく、実質的には国外への旅行の際にのみ、行き先によってワクチン接種を証明する必要があるときにのみ利用されています。
マスク着用義務	[5月27日時点] 5月5日よりFFP2 / KN 95等のレスピレーター着用義務が医療・福祉機関においても撤廃されました。ただし医療・福祉施設の判断で着用が必要と判断する場合は、その旨を掲示することもあり得ます。また、屋外でのFFP2、KN95等のレスピレーターの着用も不要となっています。ただし他人と最低1.5mの距離を確保できない場所（屋内外共に）では、レスピレーターが少なくともサージカルマスクを着用することが強く推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月27日時点] 空港のPCR検査場では日本帰国用のフォーマットに記入をしてくれます。ただし支払いが現地払いでかつ事前予約は出来ません。現在プラハ市内（及びチェコ国内）でPCR検査をする機関と契約を進めており、日本帰国用のフォーマットの記入もインボイス支払いも可能になる見込みです。追加料金でナースをホテルに呼び、そこでPCR検査することも可能となる見込みです。検査結果が出るのが採取から3～48時間が一般的。ただし、PCR検査を受ける人が徐々に減少しており、今後こういった検査場の閉鎖が懸念されます。またほとんどの検査場が日曜・祝日は開いていません。

DENMARK (デンマーク)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ヨーロッパ、アメリカなどからの観光客が戻っており、徐々にコロナ前の混雑に戻りつつあります。一般生活はコロナ前の状況と全く変わりません。

日本からの入国情報	[5月31日時点] デンマーク入国に関する制限・規制は全撤廃となりました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] ワクチン接種1回目から約14日以降にオンラインにて「EU COVID-19 certificate」の取得が可能となります。なお規制は全て解除となっており、国内ではDCCの取得は不要となります。
マスク着用義務	[5月31日時点] 規制は全て解除となっておりますが、病院やケア施設への訪問時には引き続きマスク着用が求められることがあります。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月31日時点] デンマークは医療費無料で私立クリニックが少ない上（法人契約や専門医療などを利用）、コペンハーゲン空港が市内から近距離にあるため、コペンハーゲン・カストルupp空港検査機関を利用することをお勧めします。各自治体のコロナ検査センターでは証明書が発行されません。（陽性の場合のみ本人に連絡。居住者は専用サイトに個人番号を使ってログインし結果確認する形式です。）

FINLAND (フィンランド)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

今月タンペレとヘルシンキでアイスホッケーの世界選手権が開催されましたが、2月開催の北京オリンピックに続き、再びフィンランドチームが優勝した為、フィンランド各地で大変な盛り上がりを見せていました。

日本からの入国情報	[5月31日時点] ワクチン接種証明書を所持し、ワクチンの必要回数接種後7日以上経過している者は入国可能。ワクチン接種完了証明書には、接種完了から7日間経過していること、搭乗者名、ワクチンメーカー名、接種回数、接種日、接種場所、COVID-19の予防接種である旨の記載が必要。また、陰性証明書、診断書、ワクチン接種完了証明書ともに英語で記載されているものに限りませす。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] ワクチン接種から約5日以降にオンラインにて「EU COVID-19 certificate」取得可能。イベントでは主催者が自主的にコロナパスの確認を行っていましたが、現在は規制解除となっており国内では不要となります。
マスク着用義務	[5月31日時点] マスク着用推奨も解除となり、フィンエア機内でのマスク着用義務も4月25日より解除となっています。(但し、渡航先・出発国の当局が要求する場合はマスク着用が必要になる場合もあり)
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月31日時点] ヘルシンキ市内・空港のプライベートクリニックで有料PCR検査を実施していますが、日本帰国用のフォーマットへの記入に関しては、(同系列であっても)それぞれのクリニックにより取扱いが異なる為、申込時、検査時にしっかりと確認が必要です。なお現時点では、基本各クリニックの予約時に支払いが必要となります。

FRANCE (フランス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

観光名所は多くの観光客で賑わっており、ルーブル美術館やオルセー美術館では入場するための長蛇の列が見られます。本格的なバカンスシーズンの到来です。エッフェル塔、ムーランルージュ、ディナークルーズなどの人気施設は、1か月先まで予約満席です。日本人観光客が戻っていても、観光大国フランスにとってはまったく影響がないように思われます。屋外でマスクを着用している人はほとんどいません。セーヌ川河岸や公園の芝生の上では、ピクニックや日光浴をする人たちが溢れています。衛生パスやマスクの制限が一切ないので、コロナ前の日常生活と全く変わりません。

<p>日本からの入国情報</p>	<p>[5月27日時点] 日本は最も規制の少ない「緑」に区分されており、渡航理由にかかわらず入国可能です。●搭乗にあたっての検査：①ワクチン接種済みの場合：必要なし。②ワクチン未接種の場合：72時間以内のPCR検査または48時間以内の抗原検査の陰性証明、もしくは、罹患した際のPCR検査または抗原検査の11日以降6ヶ月以内の陽性証明が必要。●到着にあたっての検査／到着後の隔離：なし</p>
<p>DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況</p>	<p>[5月27日時点] ワクチン・パスが必要となる場所はありません。病院、高齢者施設、障がい者施設では証明書が必要ですが、ワクチン・パスではなく、ワクチン接種証明、陰性証明、回復証明のいずれかを提示すれば問題ありません。</p>
<p>マスク着用義務</p>	<p>[5月27日時点] 屋外でのマスク着用義務は終了しました。電車や飛行機を除いて、ワクチンパスまたは衛生パスの対象となる閉鎖された場所では、マスク着用は必須ではなくなりました。(ただし多くの屋内施設では、マスク着用が推奨されています。)</p>
<p>日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項</p>	<p>[5月27日時点] 日曜・祝日は多くのラボが休みのため、手配不可となります。</p>



オペラ座前



オルセー美術館の行列

GERMANY (ドイツ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

1日あたりの感染者は順調に減少しています。
先日、旅行者と話す機会があったのですが、まだまだドイツではマスクをする機会があり、誰もマスクを着けていないオランダとは違うと話題にしていました。とは言え、そろそろドイツでも夏の休暇シーズンに向けて更なる規制緩和の発表が予想されています。

日本からの入国情報	<p>[5月31日時点] 全ての国・地域からの6歳以上のドイツ入国者は陰性証明書、ワクチン接種証明書、快復証明書のいずれかを提示する義務のみ。隔離及びデジタル登録は不要。 ※6月1日から、ドイツ入国に際し各種証明書（ワクチン接種証明書、陰性証明書、快復証明書）の提示義務がなくなる旨報じられていますが、現時点ではその対象者がEU圏内の居住者やEU圏内からの渡航者に限るのか、日本を含む第三国からの渡航者を含むのか等の詳細が示されていません。そのため、入国審査の現場では引き続き従来のルールに基づいて、種証明書の提示が求められていますのでご注意ください。</p>
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	<p>[5月31日時点] ワクチン接種証明書"CovPass"が運用開始され、接種時にワクチン手帳 (Impfpass/Impfbuch) に必要情報が記載されます。手帳の提示により出入国やショッピング・飲食店利用時に証明書提示が免除となります。ドイツではそれに加え、デジタル証明の運用が開始され、専用アプリを介して取得が可能です。※発行は任意</p>
マスク着用義務	<p>[5月31日時点] 公共交通機関、医療機関や介護施設など特定の場所でのみ、医療マスク (FFP2、KN95/N95マスク) の着用義務が継続中です。違反すると最低50ユーロの反則金が課されます。</p>
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	<p>[5月31日時点] グループ予約に対応している検査施設は、まだ少ない状況です。</p>

GREECE (ギリシャ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

9月中旬まで、マスク着用が緩和されると発表がありました。6月13日は聖神の日（ペンテコステ）です。長期の規制緩和発表後ということもあり、今年は賑わう日となるのではないのでしょうか。

日本からの入国情報	[5月31日時点] 5月1日以降、ギリシャ国内線・国際線における COVID-19 関連の制限措置が一時的に解除されました。これに伴い、新型コロナワクチン関係の証明書（ワクチン接種証明書、治癒証明書及び陰性結果証明書）の提示義務は解除されます。この措置は6月2日以降も継続されています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] ギリシャもDCCの運用が開始していますが、EU以外の第三国からの外国人は書面での提示でよいとされています。なお、レストラン（屋内）や博物館（屋内）入場時の提示義務は解除されました。（※ただし、一部例外（官民の非免疫者の従業員、緊急救命除く医療機関での付添人等）で、証明書の提示が引き続き求められる場合があります。）
マスク着用義務	[5月31日時点] ギリシャ保健大臣は、9月15日までのマスク着用義務について、下記のとおり発表しました。 ■原則として、全ての室内・屋外でのマスク着用義務を解除する（違反金措置解除を含む）。義務解除の対象には、室内・屋外の労働者と、指定席のある交通機関（航空便、鉄道便、長距離バス等）が含まれる。ただし、すべての場で、特にハイリスクグループに関しては、マスク着用を強く推奨する。 ■病院、高齢者介護施設等、医療・高齢者関連の施設や機関。指定席のない公共交通機関（バス、メトロ、トロリー、トラム等）などでは、マスク着用義務を継続する。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月31日時点] 12時間で結果が出る場合もありますが、結果判明までは24時間を見ておいてください。また英語が通じる病院も多いですが、念のためアシスタントを手配することをお勧めしています。

HUNGARY (ハンガリー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ハンガリーではコロナ関連の規制が撤廃されており、レストラン、入場施設などもスムーズに利用できています。陰性証明を提示する機会も無いので、活動はコロナ以前に戻っています。ウクライナ情勢についても、ブダペスト市内は普段と変わらない落ち着きがあり、影響を感じる事はありません。アジア圏からの観光客は未だに限られていますが、たまに韓国人と思われる少人数の若いグループを見かけます。

日本からの入国情報	[5月30日時点] 入国規制が撤廃されています。入国時のPCR検査やワクチン接種証明書などの提出も不要です。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月30日時点] 3月7日より規制が撤廃されたため、ワクチン証明などを見せる必要がなくなりました。
マスク着用義務	[5月30日時点] マスク着用義務は撤廃されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月30日時点] 検査結果が出るまでに12~24時間見ておいてください。また今後PCR検査機関の減少が予想されます。ご注意ください。

ITALY (イタリア)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

5月1日よりグリーンパスは完全撤廃し、レストラン、美術館でもチェックがなくなり、スムーズに入れるようになっていきます。6月15日まで公共交通機関と一部屋内公共施設でのマスク着用義務が継続していますが、屋外ではマスク着用者を見かけなくなりました。アジアからのグループも最近街中で見かけるようになり、ミラノでは日本人グループのツアーも確認されています。コロッセオやバチカン美術館など、人気入場箇所は予約も取りにくくなっており、サンピエトロ寺院では中に入るために約30分、混雑時は1時間以上並ぶ日もできています。

日本からの入国情報	[5月31日時点] イタリア保健省は報道発表をもって、イタリア入国のためのCOVID-19グリーン証明書に係る保健省命令は期限切れとなり、関連措置は延長されない旨を発表しました。したがって、6月1日以降、イタリア入国の際にCOVID-19グリーン証明書（ワクチン接種証明、治癒証明、陰性証明のいずれか一つ）又は同等の証明書を提示することは不要となります（※日本から入国する場合も、ワクチン接種証明やPCR検査、抗原検査の陰性結果を提示することは不要です）。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月26日時点] 5月1日よりグリーンパスの提示が殆どの場所で不要となりました。ただしバチカン博物館のように独自にルールを設定し、グリーンパスの提示を必要としているところも存在します。また老人ホームや病院では2022年12月31日までグリーンパスの提示が求められます。
マスク着用義務	[5月26日時点] <ul style="list-style-type: none">● 交通機関の利用、劇場など一般公開される催しではFFP2マスクが依然として義務。● 医療施設、介護施設、ホスピス等の従事者、利用者、訪問者にはマスク着用が義務付けられる。● 公共または一般に開かれた屋内の全ての場所でマスク着用が推奨される。● 以下の者はマスク着用の義務はない。 6歳未満の子供。マスクの着用に適さない疾患や障害を持つ者。また、障害者と意思疎通をする上でマスクの着用が不適当な者。スポーツ活動中の者。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月26日時点] イタリア主要都市（ミラノ、ヴェニス、フィレンツェ、ローマ）にてクリニックと契約しています。検査可能な日時はクリニックにより異なりますが、いずれも日曜・祭日の検査は不可となります（土曜は時間が限られています）。検査結果は通常48時間で入手できますが、追加料金を払うことにより、当日受け取りが可能な場合もあります。最近では需要減少のため、PCR検査を行う検査機関が減少、または検査時間の短縮を行い始めています。

IRELAND (アイルランド)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

コロナウィルスの規制が完全撤廃され、約3か月が過ぎようとしており、完全にコロナ前の日常生活が戻っております。街中ではマスクをしている方も殆んど見掛けない状況です。アメリカや欧州内からの旅行客もかなり増えてきており、一番の夏のシーズンを今年は良い形で迎えられそうです。

日本からの入国情報	[5月31日時点] 入国に関わる制限は全て撤廃されています。到着時のワクチン接種証明、回復証明、PCRテスト陰性結果の提示、及び旅客所在確認フォーム(Passenger Locator Form)の記入が、全て不要となっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] 国内における屋内のホスピタリティ・娯楽施設に関する規制は全て解除され、これらの施設に入場する際の、ワクチン接種証明書も不要となっています。
マスク着用義務	[5月31日時点] マスク着用の法的義務は解除されています。ただし公共交通機関や医療機関などでは、マスク着用が引き続き推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月31日時点] 各国の規制解除によりPCR検査の需要が減ってきており、今後検査機関の減少が予想されます。ご注意ください。

NETHERLAND (オランダ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

オランダは一日あたりの感染者が0の日もあり、すっかりコロナ前の状態に戻っています。夏の休暇シーズンを迎え、空港での人手不足もあり、空港での混雑が目立ちます。

日本からの入国情報	<p>[5月31日時点] ■ワクチン接種者：空路で入国する者の健康申告書の提示義務も廃止され、通常の入国審査となります。■ワクチン未接種者：EUの入国制限措置対象のため、滞在許可を持つ方や特定の職業など入国制限の例外となる者以外、入国できません。 ※ワクチン接種証明書は、オランダ等で発行されたEUデジタル証明書（DCC）か、基準を満たす証明書である必要があります。ワクチン接種証明書を提示する場合には、ワクチン接種に関する申告書を提示する必要があります。</p>
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	<p>[5月31日時点] コロナ・エントリー・パスが必要となる場所は無くなりました。</p>
マスク着用義務	<p>[5月31日時点] 公共交通機関においてのマスク着用義務が撤廃されました。飛行機内とセキュリティーチェック以降の空港内においては、引き続きマスクの着用が義務付けられています。（13歳以上が対象。）違反者には95ユーロの罰金が課されます。</p>
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	<p>[5月31日時点] 弊社が予約代行を行っている検査機関は、結果が早い上に比較的臨機応変な対応が可能です。しかし、今後は検査機関の減少も予想されますのでご注意ください。</p>



ゴータで行われたチーズ市の様子

NORWAY (ノルウェー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

例年ノルウェーでは5月17日の憲法記念日に人々が街に繰り出し盛大にお祝いが行われましたが、コロナ禍で2年中止になっていた子供たちのパレードなども再開し、お天気にも恵まれたオスロでは過去最多の人が参加するお祝いとなりました。

<p>日本からの入国情報</p>	<p>[5月31日時点] 2月12日より全ての規制が解除となりました。原則、日本パスポート保持者への入国制限はありません。入国前登録、陰性証明、入国後の検査や自主隔離も不要となりました。</p>
<p>DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況</p>	<p>[5月31日時点] ワクチン接種後、オンラインにて取得可能。国内仕様とEU仕様の二種類ありますが、規制撤廃に伴い国内で使用することはありません。</p>
<p>マスク着用義務</p>	<p>[5月31日時点] 2月12日より全ての規制が解除となりました。持病がある等の理由でマスクをしている人も稀に見られますが、大多数の市民はマスクなしで生活しています。</p>
<p>日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項</p>	<p>[5月31日時点] オスロは週末も対応するラボや短時間で結果が出るプランなどが比較的揃っていますが、PCRの需要が減っていることから状況は流動的です。ご注意ください。</p>



5/17 建国記念日の様子

PORTUGAL (ポルトガル)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

5月に入り感染者数が緩やかに増加しているものの、病院でも以前のような混乱は一切なく、国内での生活は普通に過ごせています。規制が大幅に緩和されマスク着用も撤廃されていますが、スーパーなどではマスク着用をしている人が多いようです。現地ガイドや住民からは、アジアからの観光客も含めてコロナ以前より観光客が多いとの声が出ています。

日本からの入国情報	[5月30日時点] 4月23日より、目的及び出発地を問わず、ポルトガルへの入国が許可されました。これにより、昨年9月以降課されていた日本を起点とする渡航制限（必要不可欠な目的のみ可）は撤廃されます。入国者は以下のいずれかを提示する必要があります。EUデジタル証明書または相互主義を満たした国が発行したワクチン証明・治癒証明書、搭乗前72時間以内に受検したPCRを含む核酸増幅法検査または搭乗前24時間以内に受検した迅速抗原検査のいずれかの陰性証明書。（注）日本が発行したワクチン証明書は認められていませんので、陰性証明書の携行が必要となります。12歳未満の渡航者には適用されません。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月30日時点] SNS24（国民健康保険サービス）のサイトよりオンラインで取得可能。現在、入国の際（検問など国境警備があれば、その際も同様）など特別な場合にのみ提示義務あり。
マスク着用義務	[5月30日時点] 4月21日より閉鎖空間でのマスク着用義務が撤廃。ただし高齢者入居施設、医療機関、公共交通機関内での着用義務は継続。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月30日時点] 検査結果が出るまでに24時間かかるのが一般的です。また日曜はクローズしているラボが多いためご注意ください。



LIS市内 アジアンフードコート

SPAIN (スペイン)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

市民はコロナ前と変わらない生活を送っています。国内旅行だけでなく、他のヨーロッパ諸国や北米、南米などから多くの観光客がスペインを訪れ、各地の観光地はほぼコロナ前と変わらない賑わいを見せています。最近では、少ないながらもアジアからの観光客も見られるようになってきました。

日本からの入国情報	[5月30日時点] 「スペイン保健省への事前登録 (QRコード取得)」 + 「証明書 (ワクチン証明・陰性証明・回復証明のいずれか)」 で入国が可能です。なお事前登録は、スペイン保健省の専用ページ 「 https://www.spth.gov.es/ 」 又は専用の無料アプリ 「SPAIN TRAVEL HEALTH-SpTH」 から、スペイン到着の72時間前より登録可能です。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月30日現在] 入国時にEU Digital Covid Certificateを使用。取得方法は居住する州によって異なります。商店入店時等のワクチン証明・陰性証明の提示義務はありません。
マスク着用義務	[5月30日時点] 公共交通機関や医療機関等を除き、屋外・屋内ともにマスク着用の義務はありません (薬局の入店時はマスク着用が義務となっていますので注意が必要です)。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月30日時点] 通常のPCR検査は、医療機関からの検査結果判明まで24時間ほどかかります (2, 3時間で結果の出るエクスプレス検査を除く。またすべての都市でエクスプレス検査が対応可能ではありません)。さらに記入事項の不備も散見されるため、修正のための時間も考慮して、PCR検査受診、結果受領には余裕をもったスケジュールをしてください。



5月下旬 混雑するBCN空港

SWEDEN（スウェーデン）



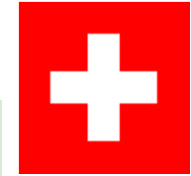
ヨーロッパから現地の声をお届けします！

人々の生活はコロナ以前と変わらず平常に戻っています。

ストックホルムのアーランダ空港ではセキュリティーチェックの混雑状況がかなりひどく、隣国ノルウェーでもニュースになっています。今月ストックホルム空港を利用したスタッフによると、フライトに間に合わない人たちも多発しているそう。今後夏のバケーションシーズンに向けて、空港へは早めに到着することが強く勧められています。

日本からの入国情報	[5月31日時点] 4月1日よりスウェーデン入国に関する規制を全撤廃しました。ワクチン証明、コロナ陰性証明、入国前の登録や入国後の隔離などありません。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] ワクチン接種完了7日以内に国のワクチンデジタル登録されるので、その後ウェブ上でパーソナル番号等を入力して取得する。国内では規制解除の為、使用することはありません。
マスク着用義務	[5月31日時点] 2月9日より規制解除となっています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月31日時点] 市内ではプライベートクリニックにて日本帰国用に指定フォームでの対応が可能な所はありますが、コロナ検査需要自体が減少している為、状況に関しては流動的です。

SWITZERLAND (スイス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

通常通りの生活です。
アジアや北米エリアからの大型ツアーも帰ってきています。

日本からの入国情報	[5月31日時点] 入国規制はありません。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] 不要です。
マスク着用義務	[5月31日時点] マスク着用義務はありません。(州によって、医療施設はまだマスク着用義務あり)
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月31日時点] <ul style="list-style-type: none">・チューリッヒ空港で毎日可能で結果は3時間で出ます。日本指定の書式はメール送信でも結果判明後に空港でもらうことも可能です。テストはフライトの前日に受けることをお勧めしています。・ジュネーブではグループの場合、ホテルでの実施でリクエストベースとなります。・他都市(ルツェルン、インターラーケンなど)でも可能ですが、結果が出るまで一般的に48時間かかるので注意が必要です。



西部グリュイエール郊外
モレゾン山

UNITED KINGDOM (イギリス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

英国ではプラチナジュビリーの主要なイベントが行われる、6月第一週の週末を4連休にする事になり、各地で（一般のお家でも）イギリス国旗が飾られるなど、徐々に盛り上がりを見せています。
ロンドンの公園でも国花である薔薇の花が咲き始める中、観光客（特にアメリカ・欧州内）は日に日に増えてきており、市内ホテルで話を聞いても、フルブックの日も多くなってきています。

日本からの入国情報	[5月31日時点] 3月18日以降は、全ての水際措置が撤廃されています。これまで義務付けられていた乗客追跡フォーム(Passenger Locator Form)、ワクチンを完全に接種していない方の出発前検査及び入国後検査も必要が無くなっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[5月31日時点] ワクチン接種証明書 (NHS COVID Pass) の提示義務は無くなっています。4月1日以降は、COVIDパスポートに関する政府のガイダンスも終了し、施設側にパスの運用を推奨する事もなくなります。
マスク着用義務	[5月31日時点] マスク着用が義務では無くなっています。ただし、閉鎖された場所や混雑した場所にいる時、知らない人と会う時には、フェイスカバリングの使用が推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[5月31日時点] <ul style="list-style-type: none">検査受検後にお客様のメールアドレスに検査結果が通知される形態になっていますが、メールの容量を超えていて受信に影響が出ることも発生しており、渡英後でも確実に受信が可能なメールアドレスの登録が必要になります。各国の規制解除によりPCR検査の需要が減ってきており、今後検査機関の減少が予想されます。主要都市であっても、必ずしも便利なロケーションで受検出来るとは限らなくなってくる可能性があります。



5/24日に開通したエリザベスライン